

伊豆半島エコツーリズム推進全体構想の概要

1. 背景と目的

地質遺産をはじめとする数多くの資源を有する伊豆半島は、2018年にユネスコ世界ジオパークの認定を受けました。伊豆半島ジオパークでは、自然環境や歴史文化を体験し学び、それらの保全に責任を持つ観光（サステイナブルツーリズム、ジオツーリズム）を推進しています。エコツーリズムの推進により、地域の自然観光資源等の保全・活用と次代への継承をより一層図りつつ、基幹産業である観光産業を中心とした持続可能な地域経済の確立を目指します。また、サステイナブルツーリズムの実現を念頭に置いた各種ツーリズムの推進と関係者間の連携強化を図ります。

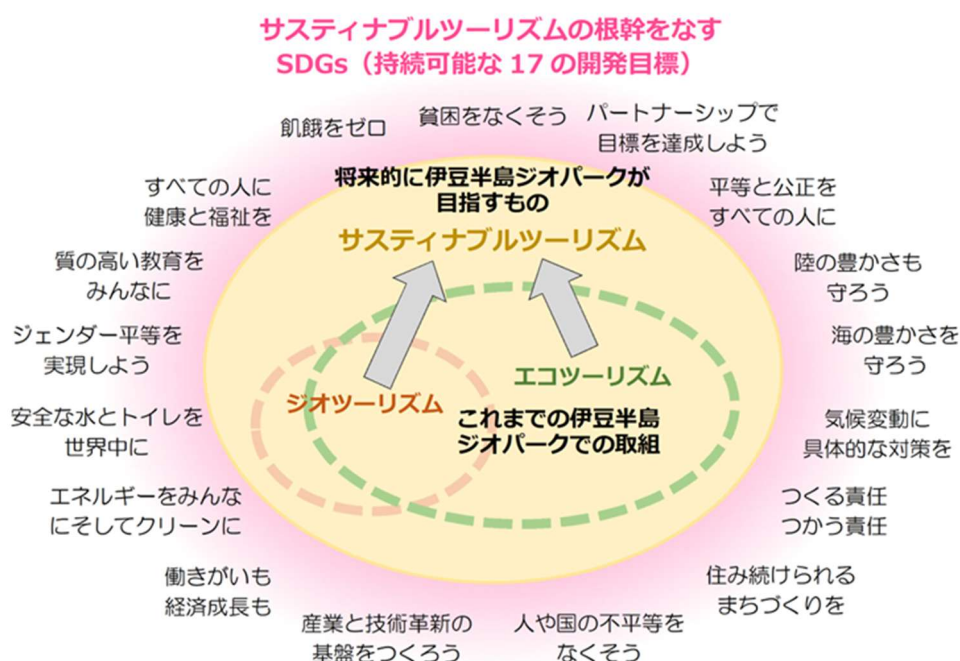


図. SDGs と伊豆半島のツーリズムが目指すもの

2. 概要

(1) 伊豆半島エコツーリズム推進全体構想を推進する地域

エコツーリズムの推進地域は、伊豆半島ジオパークに認定されたエリアであり、伊豆半島を構成する15市町（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、長泉町、清水町）及びその海域（海岸線から3km）を範囲とします。

(2) 対象となる自然観光資源

伊豆半島は、本州のはるか南にあるフィリピン海プレート上にできた海底火山群であり、幾度の噴火を繰り返しながらフィリピン海プレートとともに北上し、約100

万年前に本州に衝突して現在のような半島の形となりました。現在も火山活動や地殻変動が続いており、これによって変化に富んだ山地や海岸線、また多種多様な動植物や生態系、温泉等が形成されるとともに、地域文化が育まれてきました。これらは伊豆半島ジオパークの地質・生態・文化遺産としてサイトに登録されており、エコツーリズムの推進においては自然観光資源（文化遺産についてはその他観光資源）に設定されています。その他、伊豆半島固有の動植物も自然観光資源に設定されています。

(3) 伊豆半島エコツーリズム推進全体構想の実施方法

本構想で推進するエコツーリズムの基本方針は次の（ア）～（ウ）のとおりです。これらの方針を踏まえた上で、本構想では野生動植物とその生息地・生育地、歴史・伝統文化等、地球環境やエネルギー等の環境全般、地域住民の生活環境、参加者の安全、エコツアーの質に関する各種ルールが設定されています。

（ア）みんなに嬉しいエコツーリズムの推進

（イ）自然の保全と活用のバランスがとれたエコツーリズムの推進

（ウ）人と自然との関わりを理解し深めることができるエコツーリズムの推進

プログラムとしては海、山、川、歴史・文化を活用したツアーが想定され、その多くは既存のガイドや事業者により取り組まれています。伊豆半島のエコツアーは自然観光資源を守りながら、ツアーに関わるすべての人がこれらの資源を「楽しみ」、「学び」、「伝える」ことで観光振興や地域振興につなげていきます。

自然環境や利用環境の現状把握と保全のため、行政団体やツアー実施者等の関係機関や関係者と連携したモニタリングを継続的に行います。

(4) 伊豆半島エコツーリズム推進全体構想の推進体制

伊豆半島のエコツーリズムを推進する組織は一般社団法人美しい伊豆創造センターです。伊豆半島ジオパークを構成する15市町をはじめ、交通事業者や宿泊事業者、アクティビティ事業者等、域内で活動する様々なステークホルダーにより組織されており、これらの事業参加者と協議しながら推進していきます。

伊豆半島におけるエコツアーの写真



海底火山の痕跡を訪れるツアー



南伊豆シーカヤックツアー



紅葉の天城八丁池トレッキングツアー



城山でのラペリング



キャニオニング体験



源兵衛川せせらぎコース歩き



歴史探訪（河津七滝）



歴史探訪（下田旧市街）